シンポジウム

社会貢献と起業活動

―21世紀アジアにおける国際協力とＮＧＯの役割　第3回―

日程：2009年1月24日（土）
場所：国士舘大学梅ヶ丘校舎B301教室

講演者：
東 富彦（日本電気株式会社（NEC）CSR推進本部社会貢献室長）
村田早耶香（特定非営利活動法人かものはしプロジェクト　共同代表）
若林克彦（国士舘大学学長、アジア・日本研究センター長、SVL部長）
中山雅之（国士舘大学21世紀アジア学部准教授、アジア・日本研究センター運営委員、SVL統括執行役）
学生発表：
Green project（萩原慶太、内山秀俊、芥川美里、古賀斐也、堀田麻理絵（発表順））

2009年1月24日、当センターの研究員である中山雅之が担当するプロジェクト「21世紀アジアにおける国際協力とＮＧＯの役割」の一環としてシンポジウムが行われた。2007年3月22日には研究会合「21世紀アジアにおける国際協力とＮＧＯの役割」を第一回目として行い、続く2008年2月24日に第二回目の研究報告会となるシンポジウム「アジアの教育現場と国際教育」と題したシンポジウムを東京国際フォーラムで行っている。第三回目となる今回は、国士舘大学梅ヶ丘校舎34B301教室および同時中継にて34B302教室に映像を配信し、学生・教員・一般総計約300名が参加するシンポジウムとなった。

今回は、企業の社会貢献と起業活動に視点をあて、そこから見えるNPO・NGOの在り方と可能性を、先駆的にNPOの支援事業を行っている日本電気株式会社CSR推進本部社会貢献室の東氏から、またIT事業と国際協力活動を合わせた新しいNGOのモデルを構築し、内外でも高い評価を得ているかものはしプロジェクトの村田氏より伺った。同時に、大学での新しい試みとして、学生の社会起業支援活動を行っている国士舘大学Social Venture Laboratory（SVL） の統括執行役でもある担当研究員中山からは自身の起業活動の実例とSVLの仕組みの話がなされた。そして、SVLで実績をあげているGreen project所属の学生から社会貢献と起業についての発表が行われた。

第一部では、国士舘大学学長である若林より、国士舘設立の経緯および学内のほかの学部や研究室が試みているフォーミュラカーや緑化活動などの社会活動を紹介した。続いて中山より、自身が学生時代に起業した経緯や発展の軌跡、参加者に送る実りある学生生活を送るためのメッセージとともに、SVLのほかのグループも含めた成り立ちと実態を紹介した。そしてGreen project所属の学

生が、組織の組み立てや企業PR用の植木プランターの選択、営業活動とＮＰＯ法人登録について、またプランター以外の活動と今後の目標を発表した。

第二部では、東氏が、NECの企業としての姿勢、また社会貢献の考え方と在り方やこの事業の将来像を、とくに実例を多く用いて紹介した。また、企業内にしろ個人にしろ、起業し、事業をつづけていくことへの厳しさや、やりがいについてもお話があった。次に村田氏が、学生時代からはじめたカンボジアでの買春撲滅の活動と、NPO法人かものはしプロジェクトが経験してきた様々な局面での苦労やそれでも継続してきたこれまでの道筋について、またどのようなかたちでカンボジアの農村に支援することで買春を防いでいるかという話を、具体的な例をあげ、また映像資料なども用いながら行った。

その後、質疑応答となったが、とくに活動を始めて日が浅いGreen project所属の学生から、同じ時期に起業し、これまで活動を広げてきている村田氏に対し、運動の方向性や法人としての体制など、細かい部分まで質問していた。

当日の参加者からは、とても勉強になった、将来について深く考えた、という意見とともに、NPOと起業に対してポジティブで強いイメージが広がり、当日の発表者の熱意に影響された、という感想が多かった。また当日の様子はシンポジウム報告書として、アジア・日本研究センターから発行されている。